
新県立博物館(仮称)詳細設計 〔展示〕最終報告

平成22年10月 6日

目次

1. 新博物館のめざす姿	1
2. 展示の3つの基本	2
3. 施設全体の構成	3
4. 交流創造エリア	4
5. 展示エリア	15
6. 博物館全体に広がる空間演出	27
7. 館内にとどまらない博物館活動	28
8. 工程表・積算表	30

新博物館のめざす姿

■ 使命

- 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす
- 学びと交流を通じて人づくりに貢献する
- 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

■ 活動理念

「ともに考え、活動し、成長する博物館」

すべての博物館活動を県民・利用者みなさんに開き、ともに考え、活動するなかで、成長する博物館づくりを展開します。

- 博物館活動
- ・ 調査研究活動
 - ・ 収集保存活動
 - ・ 活用発信活動

■ テーマ

三重がもつ「多様性の力」

三重の特色は、日本の縮図ともいわれる多様で豊かな自然と、東西文化の結節点としての盛んな交流により生みだされた多様な歴史・文化をもつことにあります。

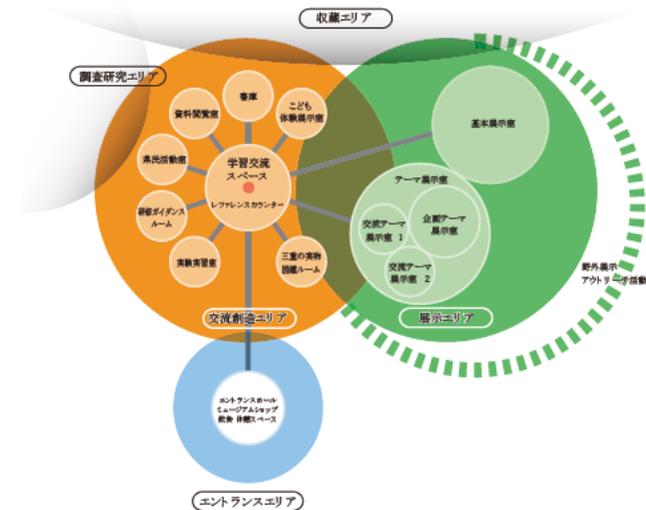
新博物館では、三重の特色である「多様性」を県民・利用者みなさんとともに探求し「多様な資産」を保全・継承し、活用することにより、地域への誇りと愛着を育み、地域に活力をもたらす、新たな文化を創造する力、今をつくり、未来を切り拓く力を生みだしていきます。

展示設計の範囲

「展示室」だけでなく「活動空間」へと対象を広げた設計

新博物館では、すべての博物館活動を県民・利用者みなさんに開き、ともに三重の特色である多様で豊かな自然と歴史・文化を探求し、守り伝え、そして生かし、力にしていけるための博物館活動を展開し、未来につながる新たな知を創造・発信することをめざしています。

このような博物館を実現していくため、従来型の「展示室」設計から、県民・利用者みなさんが、博物館活動を主体的・積極的に展開できる場の創出を目的とし「活動・空間」へと対象を広げた設計としました。



「活動・空間」設計をめざしたことから、対象範囲は、基本展示など常設的な展示室だけでなく、博物館の活用発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリア、さらにエントランスエリア、館外などでみなさんに利用いただく空間も含めた範囲を対象としました。

(新県立博物館の施設構成と対象範囲) ◎が対象範囲

◎エントランスエリア エントランスホール、ミュージアムショップなど

◎交流創造エリア 学習交流スペース、子ども体験展示室、資料閲覧室など

◎展示エリア 基本展示室、企画テーマ展示室、交流テーマ展示室1・2)

・ 収集エリア 分野別収蔵庫)

・ 調査研究エリア 標本製作室、資料整理室など)

・ 管理エリア 事務室、救護室など)

※以上のほか、館外の「ミュージアムフィールド」やアウトリーチ活動(移動展示や出前授業)も対象としました。

展示の3つの基本

新博物館のめざす姿を具体化するにあたって、次の3つを基本において展示設計を行いました。

1. 三重の自然と歴史・文化のことがわかる展示

子どもから大人まで誰もが、わくわく・どきどき感を持って楽しむことができる展示とします。また、新しい発見や魅力に満ち、親しみやすく理解しやすい展示としていきます。さらに、総合博物館の特性を生かし、自然や歴史などの各分野や、これらを総合的に捉える展示を展開することで、三重の多様性や三重の持つ多彩な魅力をさまざまな視点から紹介します。あわせて、博物館内外の各所で、三重を知り、学び、探求できるよう、さまざまな演出やしかけを配置します。

ex) 展示エリアでの展開

多様で豊かな三重の自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテーマによる大小さまざまな展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示を展開します。これらは、互いに連動、連携しながら、重層的かつ、変化に富んだ展開とし、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

2. みんなで一緒につくっていく展示

県民・利用者のみなさんとともに、行う調査研究の成果の展示をはじめ、みなさんから寄せられる地域の情報を展示などで発信していくなど、双方向の交流型の活動を展開します。また、新たな出会いや交流の場となる展示活動を行っていきます。そのため、誰もが気軽に情報の受発信を行うことができ、誰もが博物館資料を閲覧・活用できる環境を整備します。

ex) 基本展示室での展開

「調べる・参加する展示」として、県民・利用者のみなさんから集まる情報などを活用できるしくみを整備します。

3. 子どもたちを育む展示

こども体験展示室をはじめとする、展示室や交流創造エリアなどの館内だけでなく、野外のミュージアムフィールドも含めた敷地全体を活用して、子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、知ること、考えることの楽しさを知り、博物館や自分たちが住む地域に対して興味・関心がもてるようにします。あわせて、学校利用への対応など、子どもたちの学習に配慮した展示とします。

ex) こども体験展示室での展開

のぞいたり、引き出したり、くぐったり、さわったりと、子どもたちの好奇心や探求心を育む遊びの要素を多く取り入れた体験型の展示を部屋全体に用意し、子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して博物館の楽しさを知ることができる部屋とします。あわせて、保護者とともに、小さい子どもたちも安全に遊べる未就学児向けのコーナーも設置します。

県民・利用者みなさんとともに、「三重が持つ 多様性の力」を探求し、 新たな知を創造 発信する博物館

新博物館のめざす姿を具体化する設計の視点から、3階建の建物
のうち、収蔵エリアを1・2階に、エントランスエリアを2階に、活動
発信活動を展開する交流創造エリアと展示エリアを2・3階に配置
しています。

みなさんに、気軽にご利用いただきやすい空間となるよう、わかり
やすい施設構成とします。

■県民のみなさんに開かれた明るい「エントランスエリア」

エントランスエリアは、建物の2階に設けています。メインエントランス（出入口）だけ
でなく、館東側のミュージアムフィールド側からの出入口も設置するなど、誰もが気軽に
立ち寄れる空間とします。エリア内には、三重の魅力と楽しさにあふれた空間とし
ての飲食・休憩スペースやミュージアムショップなどを配置するとともに、3階の交流
創造エリアや展示エリアなどへの期待を高める効果的な演出とします。

■明るく開放的な「交流創造エリア」

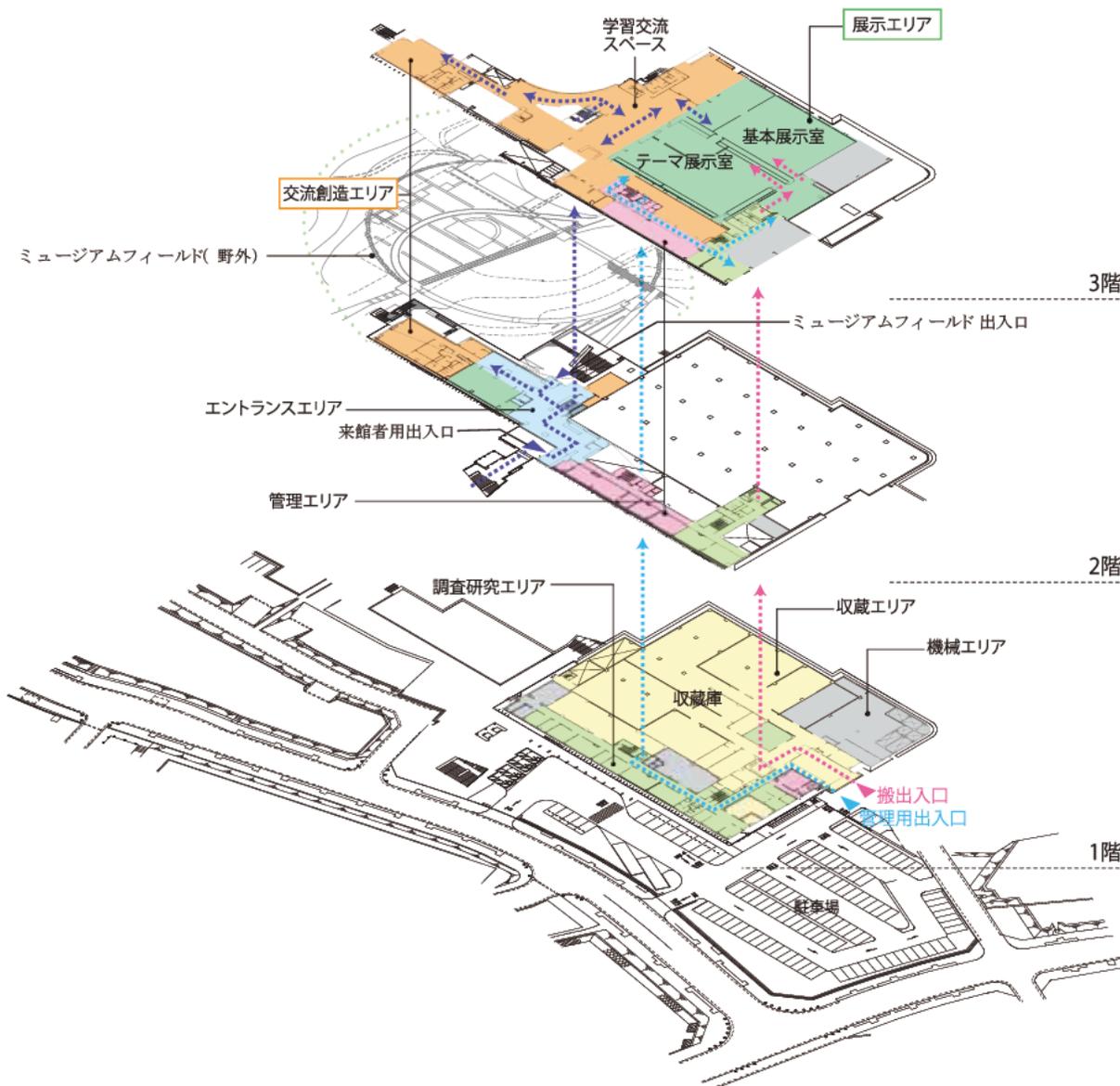
交流創造エリアは、新博物館の特色である「交流創造」を積極的に展開するための中
核的役割の場です。活動の中心となる学習交流スペースをはじめ、こども体験展示
室、資料閲覧室などの諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・
利用者みなさんの多様な興味や関心、目的に応える活動を展開する、明るく開放的
な空間とします。

■交流創造エリアと相乗効果を高める「展示エリア」

展示エリアは、展示資料の動線や保存環境に配慮した位置に配置するとともに、交流
創造エリアと連動することで、博物館活動の幅を広げるなどの相乗効果を高めます。
三重の多様で豊かな自然と歴史・文化の魅力を紹介する「基本展示」と、複数のテー
マによる大小さまざまな展示の組み合わせで展開する「テーマ展示」の2つの展示
を展開することで、三重の特色である「多様性」を探求し、県内外に発信します。

■外気の影響を受けにくい「収蔵エリア」

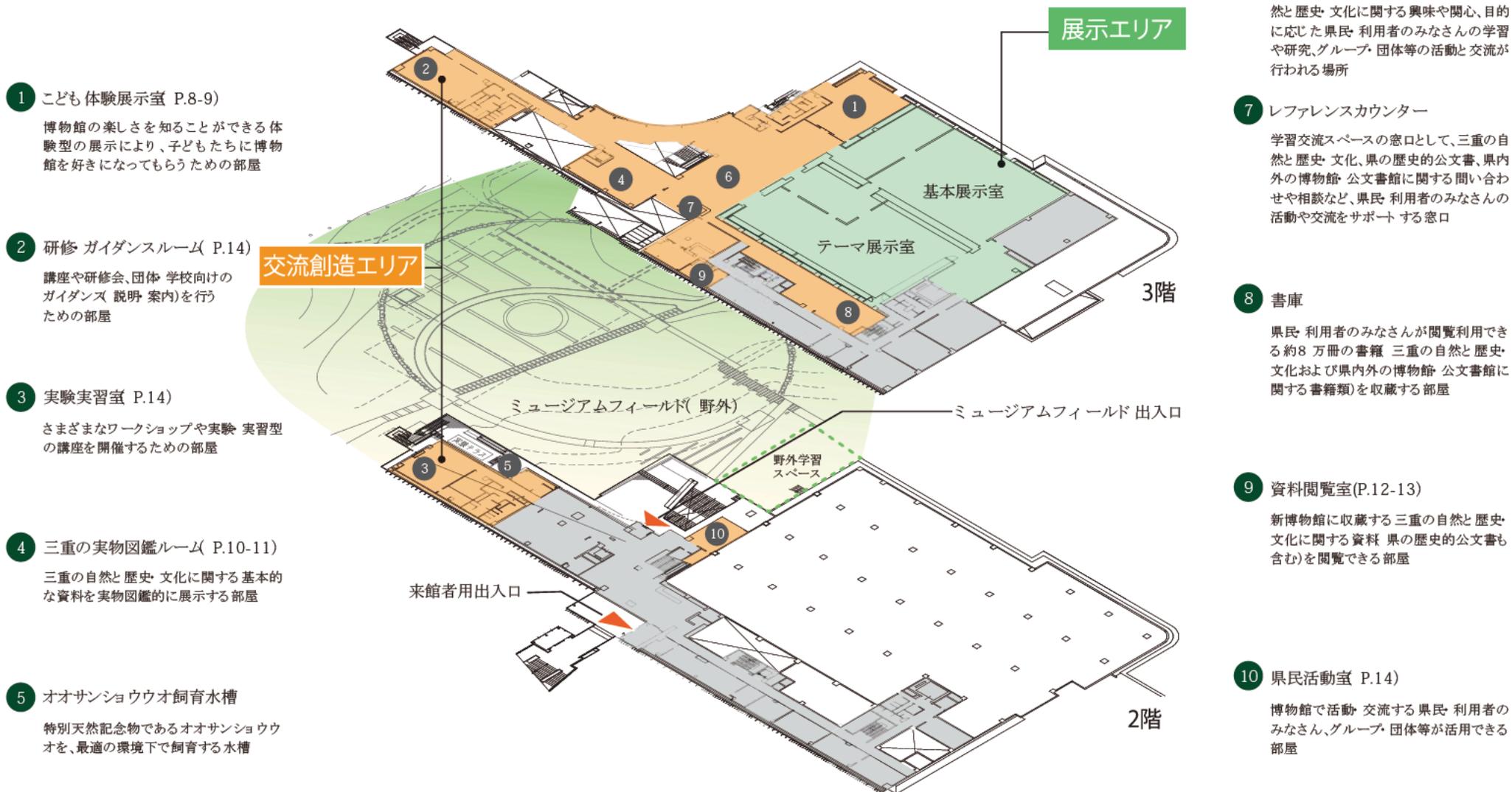
大切な資料を安全に保存していくため、収蔵エリアは、外気の影響を受けにくい1・2
階に配置しています。資料の種類、内容に合わせて保存環境の異なる収蔵庫を設け、資
料の保存、管理、研究に適した施設とします。



※エリア名称、室名は現段階では仮称とし、開館までの間に親しみやすく、わかりやすい名称としていきます。

多彩な活動と交流が生まれる博物館の中核となる交流創造エリア

県民・利用者のみなさんによる博物館活用の基点となる学習交流スペースを中心とした諸室の機能連携により、三重の自然と歴史・文化に関する県民・利用者のみなさんの多様な興味や関心、目的に応えるとともに、活動と交流の輪を館内外に広げていきます。



学習や研究、グループ・団体等の多様な活動と交流が展開する空間

ミュージアムフィールド側に開かれた明るい空間とします。交流創造エリアの他の諸室を結ぶ中心的な役割を果たし、展示エリアとも連動させます。目的に応じたコーナーが有機的につながる配置とします。三重の自然と歴史・文化等に関する問い合わせや相談、情報や書籍の閲覧、個人やグループによる活動や交流が柔軟に展開できる空間とします。博物館資料に親しめるような展示コーナーも設けます。



■ゾーニングの考え方

■レファレンスカウンター

県民・利用者のみなさんの活動や交流をサポートする窓口。学習交流スペースの核となる場として、資料閲覧室や開架書籍・情報コーナーと隣接するとともに、学芸員室と近接した配置とすることで、臨機応変に対応します。

■資料相談コーナー

レファレンスカウンターの横、三重の実物図鑑ルームや資料閲覧室・書庫とも近接することで、連動して県民・利用者のみなさんの資料相談などに対応します。

■資料閲覧室

レファレンスカウンターと近接することで、各種資料の閲覧に柔軟に対応できるとともに、収蔵庫からの資料がスムーズに搬入出できるよう、管理エリアと隣接した配置としています。

■開架書架・情報コーナー

三重の自然と歴史・文化に関する書籍や、情報を利用するみなさんにとって、より効果的な広がりとなるよう、レファレンスカウンターや資料相談コーナーと隣接した配置としています。

■博物館資料に親しむコーナー

交流創造エリアに博物館資料を展示することで、館全体で三重の魅力と楽しさを発信することとします。

■ワークショップコーナー

3階への階段を登ってすぐの場所にワークショップコーナーを展開することで、訪れた県民・利用者のみなさんが、気軽に参加できる場とします。

■くつろぎコーナー

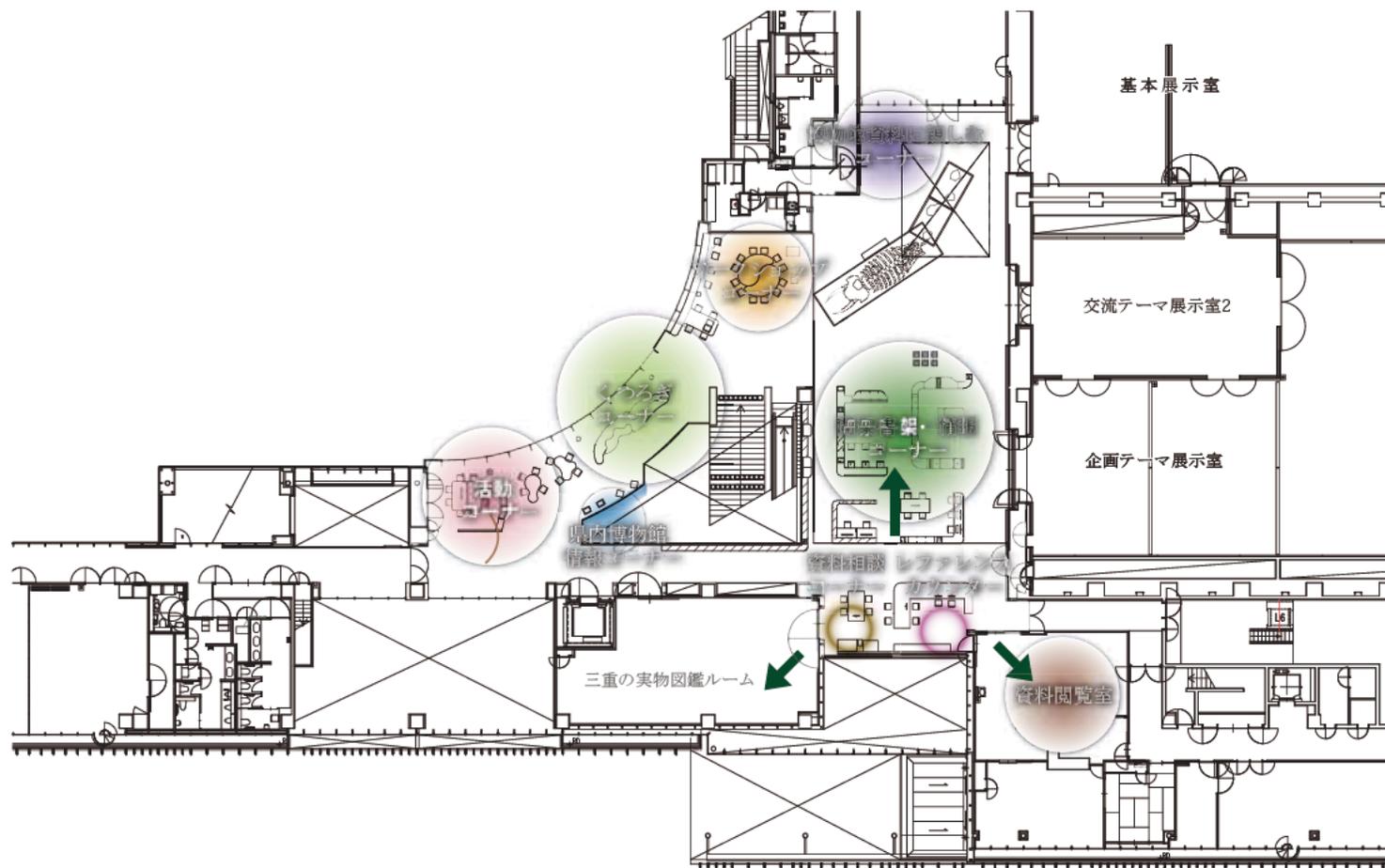
ミュージアムフィールド側に面した明るい空間に配置し、一人でもゆったりとくつろげるコーナーとします。

■活動コーナー

博物館で活動するさまざまなグループのミーティングや活動の発表などに活用できるコーナー。活動内容などの各種情報の掲示も可能な配置とします。

■県内博物館情報コーナー

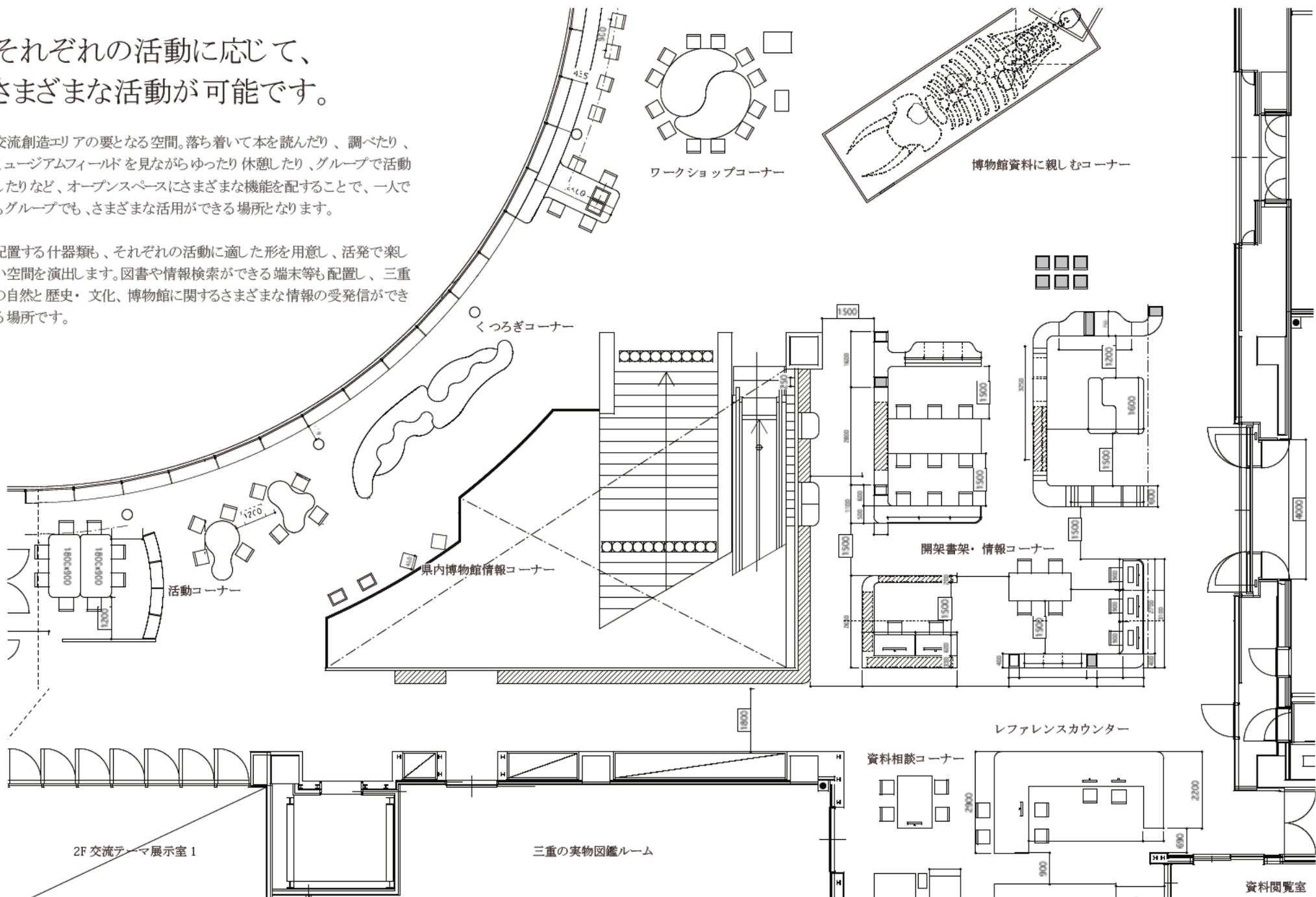
県内博物館情報の受発信を積極的に展開し、県民・利用者のみなさんの興味・関心が県内博物館にも広がるよう、情報コーナーを配置します。



それぞれの活動に応じて、
さまざまな活動が可能です。

交流創造エリアの要となる空間。落ち着いて本を読んだり、調べたり、ミュージアムフィールドを見ながらゆったり休憩したり、グループで活動したりなど、オープンスペースにさまざまな機能を配することで、一人でもグループでも、さまざまな活用ができる場所となります。

配置する什器類も、それぞれの活動に適した形を用意し、活発で楽しい空間を演出します。図書や情報検索ができる端末等も配置し、三重の自然と歴史・文化、博物館に関するさまざまな情報の受発信ができる場所です。



三重の魅力や博物館の楽しさを伝える雰囲気にあふれた空間

県民・利用者みなさんが、活発に活動する交流創造エリアの中心となる学習交流スペース内では、各所に県産材や三重をイメージさせるデザインを施し、親しみやすく活気あふれた空間とします。

レファレンスカウンター・資料相談コーナーイメージ



学習交流スペースの中心。三重の自然と歴史・文化、県の歴史的公文書、県内外の博物館・公文書館に関する問い合わせや相談など、県民・利用者みなさんの活動や交流をサポートする窓口。三重の実物図鑑ルームや資料閲覧室と連動して、県民・利用者みなさんの資料相談などに対応できるコーナー。

開架書架・情報コーナーイメージ



三重の自然と歴史・文化に関する基本書籍を収めた開架書架、収蔵資料（県の歴史的公文書も含む）のデータベース検索端末、三重の自然と歴史・文化に関する映像や情報を視聴できる端末などを設置し、学習や研究に活用できるコーナー。

くつろぎコーナーイメージ



ゆったりとした椅子を配置し、本を読んだり、ミュージアムフィールドを眺めながらくつろいだりするコーナー。

ワークショップコーナーイメージ



来館者が気軽に参加できる小規模のワークショップなどを開催するコーナー。

活動コーナーイメージ



博物館で活動するさまざまなグループがミーティングを行ったり、活動発表などを行ったりするコーナー。

博物館資料に親しむコーナーイメージ



博物館活動を象徴的に示すものとしてミエゾウの復元骨格標本を展示するなど、三重の魅力や楽しさをあらかわ博物館資料を展示するコーナー。

県内博物館情報コーナーイメージ



県内博物館のパンフレットやチラシ、各館の情報を検索できる端末を設置するなど、県内の博物館・資料館を利用するためのコーナー。

資料閲覧室イメージ



館が収蔵している資料を閲覧する室。資料の種類や性格によって、自然資料・民俗・考古資料等閲覧室、歴史的公文書・古文書等閲覧室、和室、特別閲覧室の4つの閲覧室を設置。

子どもたちが博物館を好きになる きっかけとなる展示室

ミュージアムフィールドが望める展示室。天井高を生かし、開放的な空間とします。訪れた子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる展示内容とします。

やってみる・しらべる
(調査・研究)

遊ぶ・楽しむを通して博物館資料への興味や不思議を体験し、探究心を広げるコーナーイメージ

ふしぎ?の森のフィールド
展示テーマごとに関連する展示内容や資料を五感に訴えるしかけで紹介し、子どもたちが興味をもつきっかけづくりをします。

だれの足跡?だれのうんち?
動物や昆虫など生き物のうんちや足跡などの痕跡を床や壁の一部も使って表現。何の生き物かを問いかけます。

くらべっこウォール
いろんな生き物たちと背比べ、体力比べ、能力比べができる壁面展示とします。

のこす
(収集・保存)

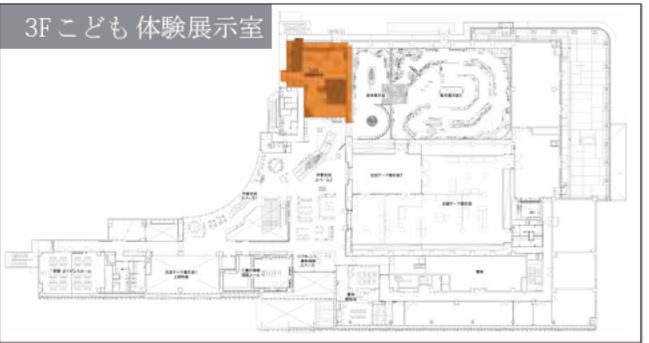
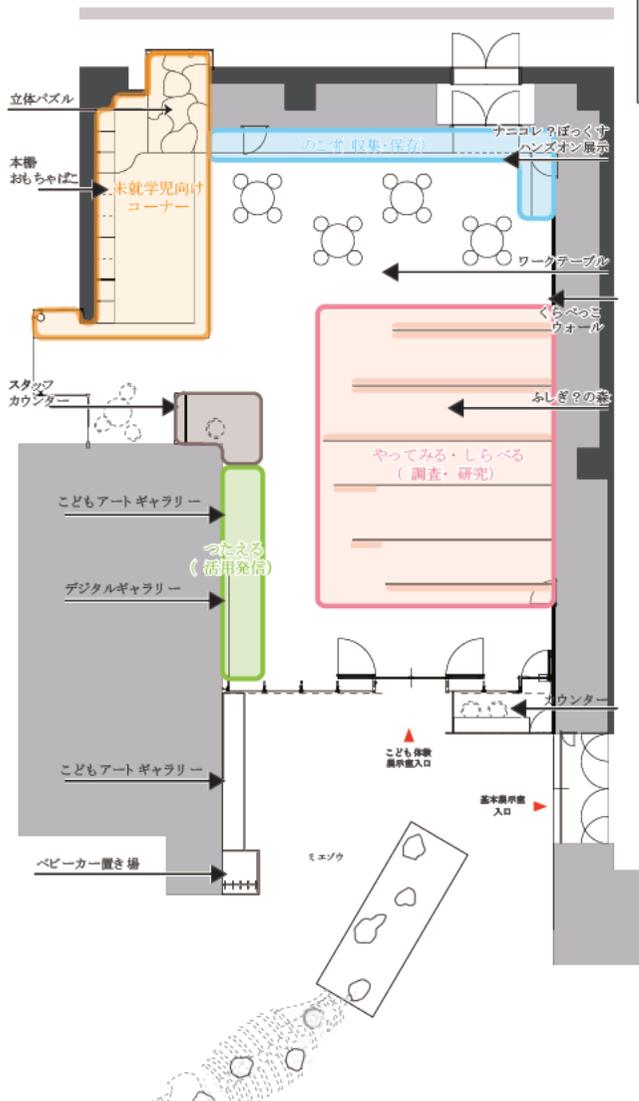
ハンズオン展示や活動を展開できるコーナーイメージ

なりきりファッションショー
動物の歩き方をまねてみたり、生き物になりきって技を体験してみるコーナーです。

ナニコレ?ぼくす
動物や昆虫、植物などの自然史系、考古、歴史、民俗等の人文系、さらに博物館の保存活動に関する展示内容が詰まったボックス。年齢や興味によって使い分けことができ、内容も随時更新可能とします。

ワークテーブル
ナニコレ?ぼくすや簡単な体験ができるスペース展開とします。

のこす、きろくする
保存する方法や、記録する技を体験します。



つたえる
(活用発信)

体験の成果を展示したり発表できるコーナーイメージ

子どもアートギャラリー
子ども体験展示室内でつたえた作品などを展示とします。

デジタルギャラリー
さまざまな用途に活用できるタッチモニター。過去の子どもたちの感想を映したり、ワークショップなどにも利用できます。

未就学児向けコーナーイメージ

未就学児も安全に体験できるように、未就学児ゾーンを設ける。

立体パズル
やわらかい素材でできた大きな立体パズルで遊べるスペースです。ソファのように腰掛けることもでき、保護者と一緒に絵本を読んだり遊んだりして、自由に過ごせます。

こども体験展示室 平面図

天井高を生かし展示室全体を活用する展示遊具を置き、登ったり、のぞいたり、引き出したりなど、子どもたちが手や身体を動かす遊びを通して、博物館の資料に興味を持つようなしなやかな部屋全体にちりばめます。

入りロデザインは、展示室内での子どもたちの楽しそうな活動が見え、ワクワク感を高めるものとします。展示構成は、徐々に情報深度が増す形とし、遊びの中から三重の多様で豊かな自然と、人と自然の関わり合いについて知ることができます。

また、柔らかい素材を用いた未就学児向けコーナーを設置し、小さい子どもたちも安全に遊べる場所を設置します。

部屋全体を見渡せる位置にカウンターを設置し、スタッフが常駐することで、子どもたちの行動のサポートや安全性の確保などに配慮します。



やってみる・しらべるコーナーのイメージ



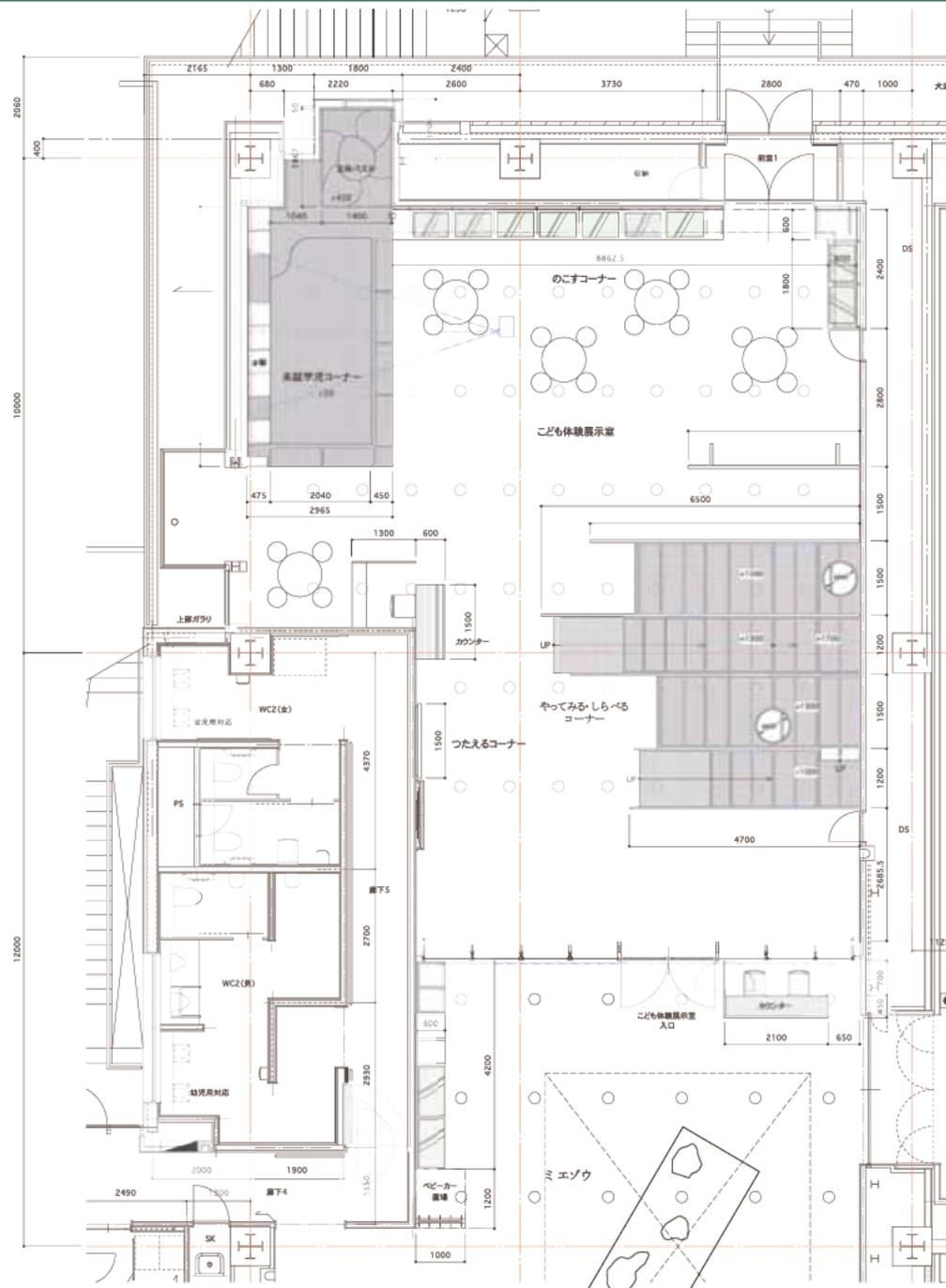
つたえるコーナーのイメージ



のこすコーナーのイメージ



未就学児コーナーのイメージ



S=1/100

身近な三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を美しく、図鑑的に展示

三重の歴史と文化に関する資料は、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせる美しい展示とします。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行い、限られたスペースで多くの資料を紹介します。

三重の自然に関する資料は、図鑑的分類による展示に加えて、映像やグラフィックなど、動植物の生態を伝える展示手法や、身近な自然の展示、さわれる展示など、資料に興味をもってもらえるような展示とします。

3F 三重の実物図鑑ルーム



三重の歴史と文化に関する資料の展示イメージ



三重の自然に関する資料の展示イメージ



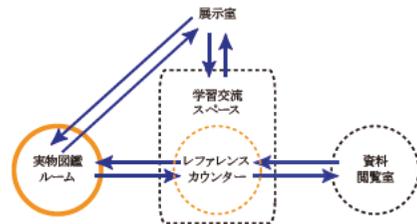
分類	出土したモノ	受け継がれたモノ	継承されるワザ	愛用されたモノ	受け継いでいくキロク
	出土した考古資料など	大切に保存されてきた美術工芸品など	伝え残すべき伝統工芸やその技など	日常的に使われてきた道具、民俗資料など	保存されてきた記録資料や新たに保存する歴史的公文書など
展示資料 (例)	須恵器 器台など	和時計など	縞帳など	蓄音機など	地租改正反対一揆関係資料 など

岩石・鉱石・化石類	昆虫類	貝類 甲殻類・その他無脊椎動物	魚類 両生類 爬虫類	鳥類 哺乳類	植物 菌類	さわれる展示
花崗岩	ギフチョウ	セキトリハッキガイ	ドジョウ	カワセミ	サカキ	ニホンジカ
サメの歯 など	オニヤンマ など	クモヒトデ など	アマガエル	ニホンリス	ハラタケ など	ニホンザル など
			ヤマカガシ など	ニホンイタチ など		

■展示室の特徴

他の諸室や資料相談、閲覧との連動

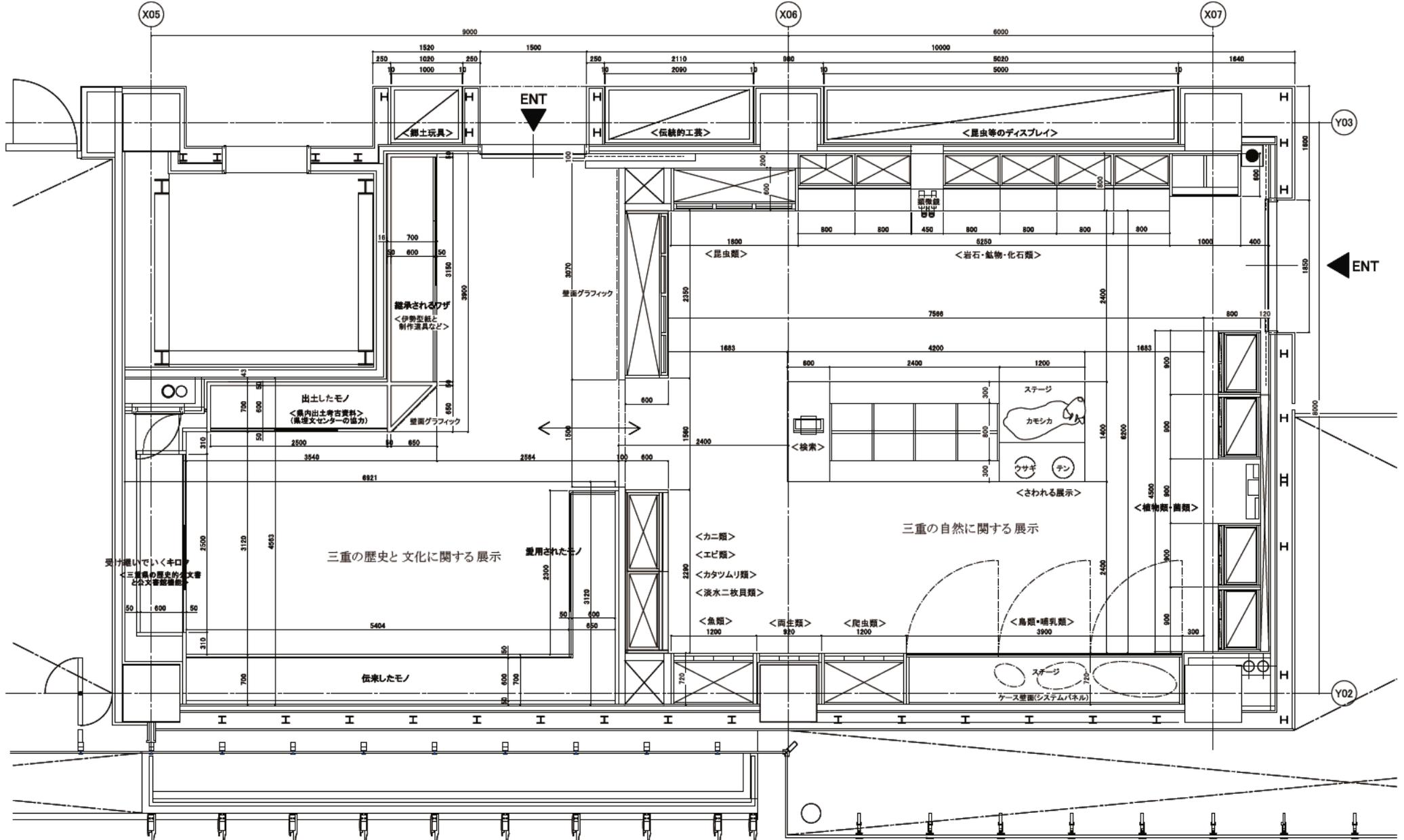
実物図鑑ルームの見学にとどまらず、レファレンスカウンターでの資料相談に連動した利用や、資料閲覧・活用のきっかけとなる部屋とします。



博物館資料の保存と継承の重要性を発信



三重の実物図鑑ルームの展示を通じて、博物館にはどのような資料が收藏され、どのように保存されているかを紹介することで、県民・利用者みなさんとの協力による地域の貴重な資料の保存、継承へとつなげます。

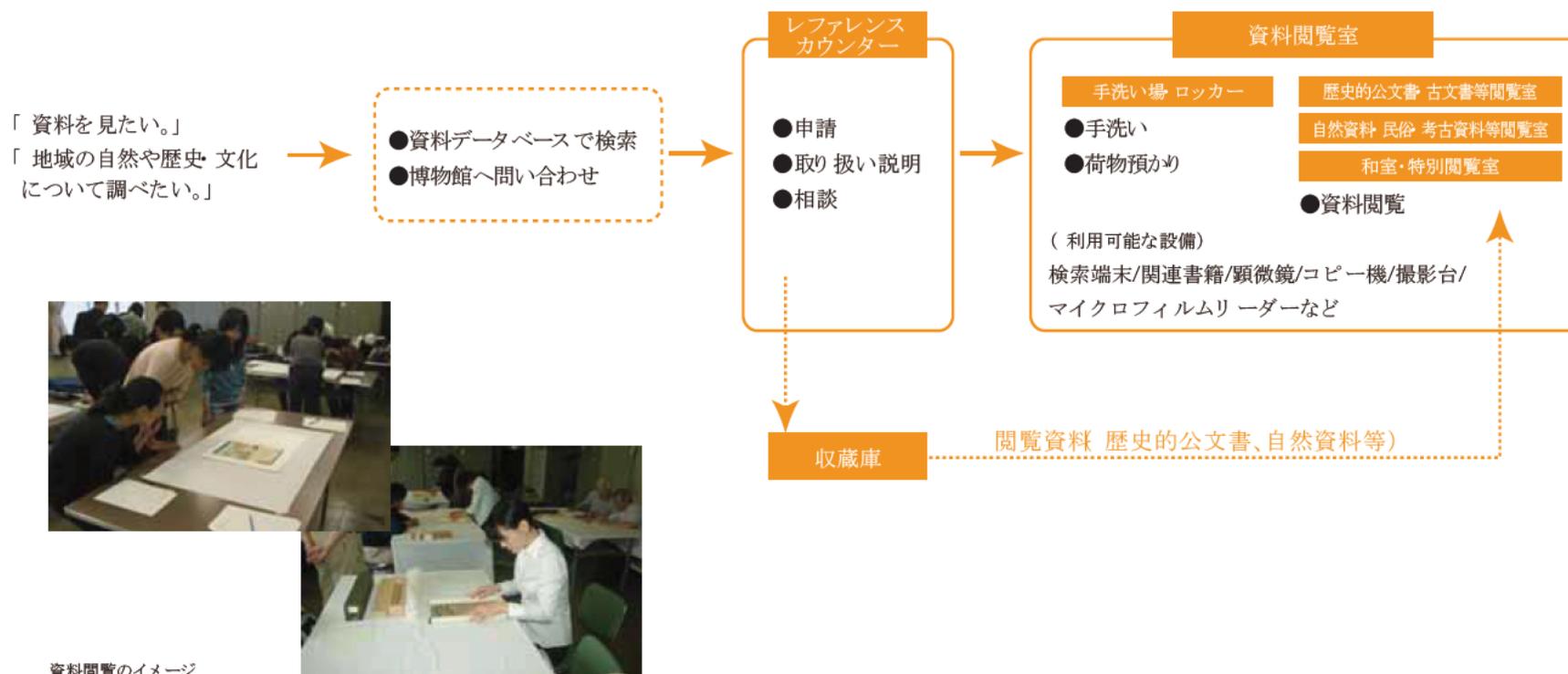


保存している自然・人文資料 歴史的公文書等を含む) などを閲覧できる博物館

博物館で所蔵する資料については、資料保存への配慮を前提とした所定の手続きを行うことにより、県民・利用者のみなさんが、閲覧、研究活動やさまざまな情報収集に利用することができます。資料への影響を考慮し、資料の種別や性格によって閲覧室を区分します。



■資料閲覧活用のイメージ



資料閲覧のイメージ

資料閲覧室 平面図

資料閲覧室は、閲覧する資料の種類や性格によって分けられた、歴史的公文書・古文書等閲覧室、自然資料・民俗・考古資料等閲覧室、和室・特別閲覧室で構成します。室内には、それぞれの資料に関連する書籍類、検索端末、顕微鏡、コピー機、撮影用テーブル、マイクロフィルムリーダーなどを設置します。

■資料閲覧室の構成

歴史的公文書 古文書等閲覧室



地誌提要材料編

三重県庁の歴史的公文書（選別公文書と明治期県庁文書・絵図など）、古文書や冊子・版本などの文献史料、版画や絵巻などの絵画資料など、主に紙媒体の資料を閲覧できます。



伊藤又五郎家文書



熊野本地絵巻

自然資料・民俗・考古資料等閲覧室



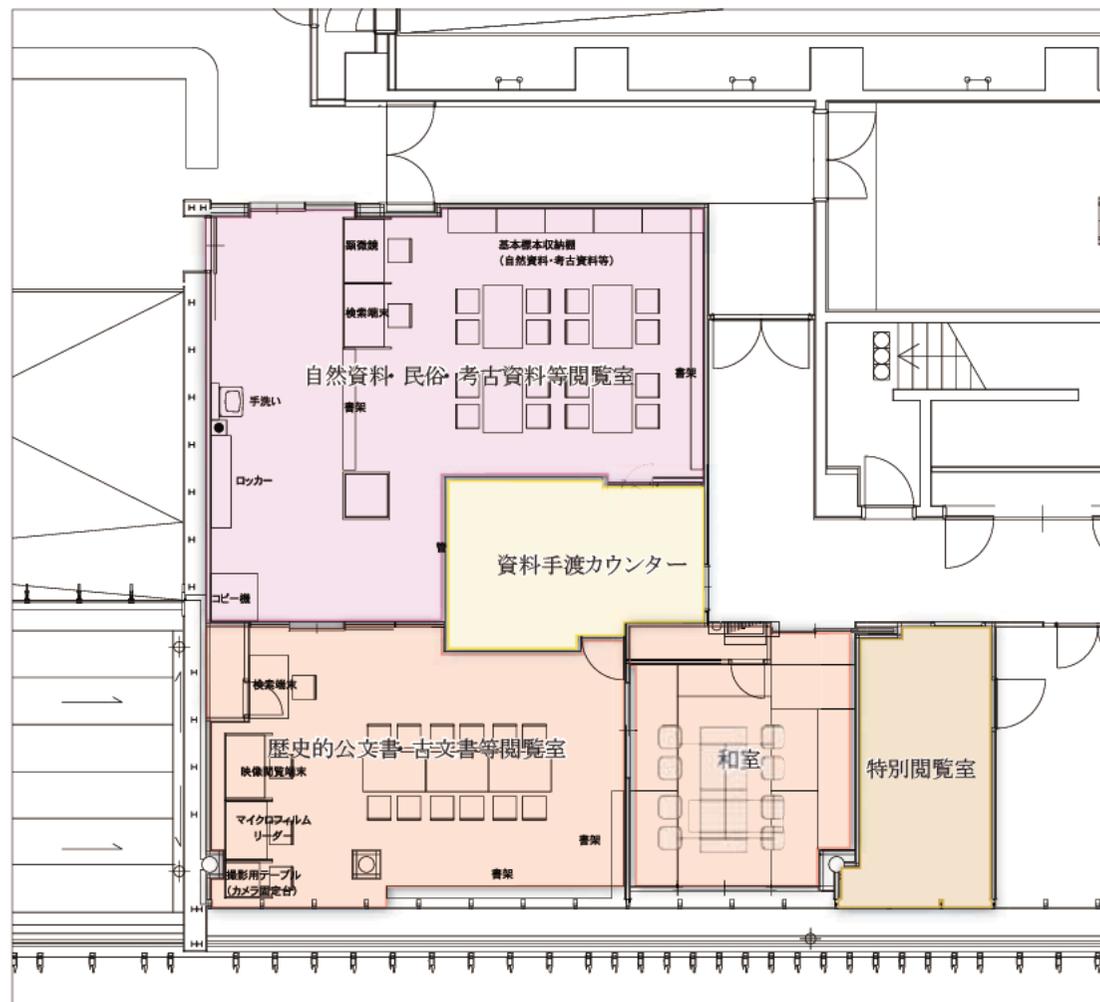
化石・鉱物などの地学標本資料、動植物の標本資料などの自然系資料、民俗・考古・陶磁器などの人文系の器物資料を閲覧できます。

和室 特別閲覧室



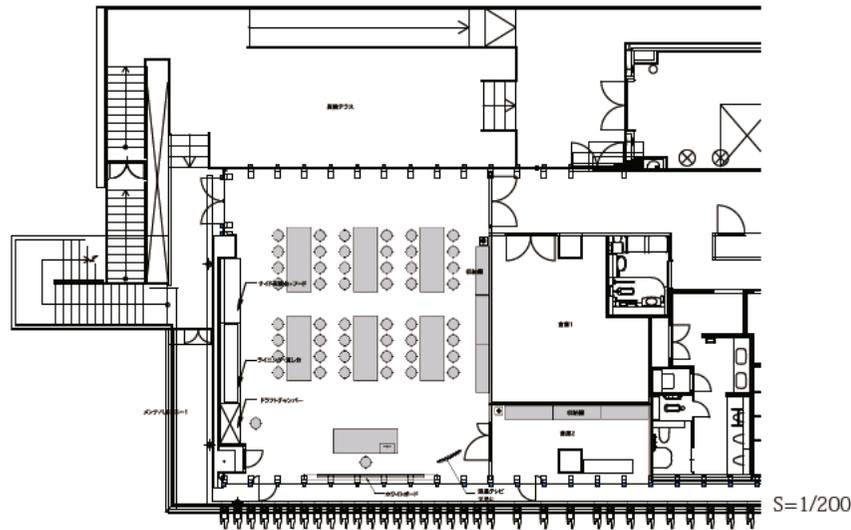
本居宣長像

軸物や屏風・大型絵図など、机上で扱うことが困難な資料、特別な配慮が必要な資料の閲覧、団体や行政機関等の特別な閲覧に使用します。



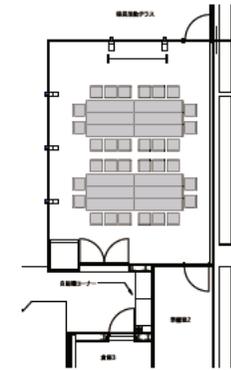
■実験実習室

約50人が収容できる、さまざまなワークショップの実施や実験・実習型の講座などを開催する部屋。水や火を用いたプログラムも実施可能な設備を設置します。



■県民活動室

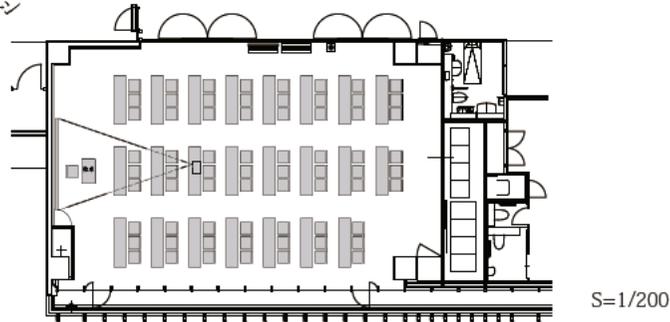
博物館の活動に参加・参画する県民・利用者のみなさんや団体などが活動するための部屋です。



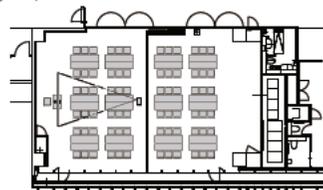
■研修 ガイダンスルーム

最大で140人収容できる、博物館講座や小規模の講演会、団体や学校向けのガイダンスなどを行う部屋。講座内容等によって、部屋を区切り、複数の部屋として使うことができます。また、雨天時の昼食も可とします。

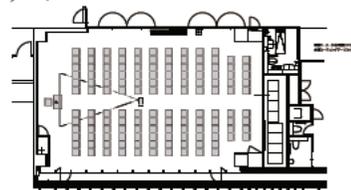
Aパターン



Bパターン



Cパターン



■飲食・休憩スペース

ミュージアムフィールドが望め、特別天然記念物のオオサンショウウオの飼育水槽に面した空間です。飲み物を飲んだり、お弁当を食べたりする場所で、配置するテーブルなども展示演出を施したものとします。

